

世田谷の元気な産業が見えてくる

せたがや エコノミックス

TAKE FREE

No.52
SETAGAYA ECONOmix

令和元年(2019年)9月15日

特集

忙しいママをワンオペから解放 みんなで子どもを笑顔にするシェアハウス

TOPICS

せたがや産業フェスタ2019開催
経営支援コーディネーターにご相談ください!



子どもの幸せのためにママの環境を整備

ひとり親に育てられた子どもを表す「シングルズキッズ」。その言葉を社名にした会社が「子どもたちを最高にハッピーにする」をミッションに母子家庭専門のシェアハウスを運営しています。

一軒家を改装してつくられた「MANAHOUSE上用賀」は、部屋を貸しているだけではなく、平日の夕食や夜9時までの見まもり・保育園のお迎えなどの手厚いサービスが特徴。炊事や見まもりは業務経験をもつシニア層を雇用し対応しています。シングルマザーの家事負担や留守中の不安を軽減し、しっかり働ける環境を提供することで、子どもたちの幸せを生みだしています。

「うちのサービスはママさんのためと思われがちですが、子どものためを一番に考えています」。そう話す代表の山中さんは、マナハウスを立ち上げる前に「母子家庭で育った大人」約30人にリサーチを実施。ママさんのサポートに力を入れているのは、かつてのシングルズキッズの多くが「お母さんの笑顔」を望んでいたからなのです。

充実したサービス込みのため入居費用は約12~15万円とけっして安くはありませんが、取材時の空き部屋は6部屋中1部屋のみ。シングルズキッズ、ママ、サポートする人々のニーズに応えながら、持続可能なビジネスとして構築されている点にも注目です。



明るく広々としたリビング兼食堂はみんなの憩いのスペース



表紙に登場する元喫茶店マスターのシゲさんは水曜日の夕食を担当



60足以上の靴が入る共用の下駄箱



いつも賑やかな食卓



家という箱じゃなくて「つながり」を提供したいという代表の山中真奈さん

形を変えて甦る「地域で子育て」

ダイニングが会員制の地域食堂を兼ねているのもポイントのひとつ。マナハウスのコンセプトに賛同する人や近所のおともだちが頻繁に訪れる。『賑やかな食卓で暖かいご飯を食べる』この環境があるだけで、孤食や孤独といった問題は解消されています。むしろ、親だけではなく多様な世代・価値観の大人たちに囲まれて育つマナハウスの子どもたちは、人見知りではいられず自然と高いコミュニケーション能力が身につく。また、大人にとっても子どもたちと食卓を囲むことで元気をもらえるという一面があるようです。

「年に一度きて『大きくなったなー』なんて言うゆるい親戚みたいな人も歓迎です」という山中さん。たくさんの人と触れ合うことを子どもたちが喜び「笑顔が増えた」と言われるようになった。かつては都市部でも普通にみられた「地域で子どもを育てる」シーンが、上用賀のシェアハウスで再現されています。

シングルズキッズ株式会社
上用賀5
03-5577-3109
<http://singleskids.jp>